

－ 不祥事防止のための心理と行動のワークシート －

目的

不祥事に至るまでの心理と行動の段階的な変化について、認知行動療法の考え方を取り入れ、学習できるようにしたものが、「不祥事防止のための心理と行動のワークシート」です。

認知行動療法の考え方では、行動したり判断をしたりするときには思考が先立つということを前提にしています。問題のある行動につながる認知の歪み*を認識して、適切な考え方・行動へ向かわせるトレーニングを行います。

*自らが見ていること、感じていることなどを都合よく歪めてしまう思考（認知の歪みについて学ぶには、テキスト23ページへ）

教職員に対して「自分自身が不祥事を起こさないため」、「周囲の教職員に不祥事を起こさせないため」、校内研修等の機会を活用してください。

不祥事防止のための心理と行動のワークシート(職員用)

分類		掲載した事例の主な内容	様式
わいせつ行為	教職員の恋愛感情に由来する身体接触	SNS で連絡先を交換し、車で外出した際にわいせつ行為に至る事例	様式 A
	その他の身体接触	複数児童へ過剰なスキンシップを行う事例	様式 C
	非接触	校内で小型カメラ等により盗撮を行う事例	様式 D
体罰	相手への制裁・報復を目的とする行為	生徒指導中、相手の態度に腹を立て、相手の頬を叩く事例	様式 a
	相手を望ましい方向へ変化させることを目的とする行為	ルールを守らせるために長時間の正座等の体罰を行う事例	様式 b
	印象操作を目的とする行為	部活動で部員に対して日常的に暴言・体罰を行っている事例	様式 d

活用方法

グループワークで行う方法と、セルフチェックで行う方法とがあります。実施の効果を持続するためには、それぞれ単発で終わらせるのではなく、例えばセルフチェックを行った上でグループワークを行ったり、一定期間を空けて再度実施したりと、繰り返しのトレーニングを行うことが効果的です。

なお、管理職は、「誰にでもこういう状況がある」「自分も同僚も誤った考え方や誤った行動を選択すれば不祥事を起こしてしまう可能性はある」と気付きを得ることが重要であることを伝えましょう。

ワークシート上の「不祥事へ向かわせる心の声」に記載している心理が直ちに危険というわけではありません。教職員が記述した内容について、個人を批判したり、個人に対する偏った見方をしたりしないよう留意しましょう。

グループワーク

ほかの教職員と意見を交わして新たな気付きを得たり、改めて留意すべきことを自覚したりすることが狙い。人に見せることを意識すると正確な振り返りができない可能性があるため、シートの開示や提出は必ずしも求めない。＜参考 司会者用手引＞

<進行例>

- 5～6名程のグループで話し合い
- 進行役を決める
- 資料の読み込み(5分程度)
- 出来事の各段階で周囲にこのような同僚がいたらどうするかを順に発言
- チームワークで不祥事を防ぐためにできることの話し合い
- 実施のルールは、他者の発言を否定したり批判したりしないこと



セルフチェック

自分自身の考え方をモニタリングして、「不祥事を思いとどまらせる心の声」の弱いところを認識することが狙い。人に見せることを意識すると正確な振り返りができない可能性があるため、シートの開示や提出は必ずしも求めない。

<進行例>

- 各自、ワークシートを読んで、自分自身の振り返りを行うよう伝達
- 自分のことや職場内のことで、気になることがあれば管理職に相談してほしいことを伝達
既に児童生徒と SNS で私的連絡をしていることの申し出、密室で面談をしている目撃情報など

